



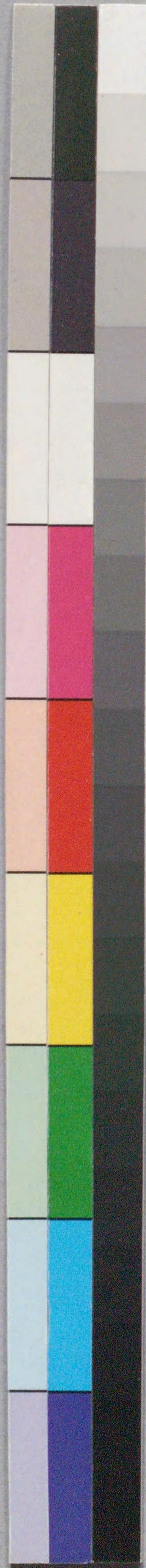
国立国会図書館 独楽新話 208-56



ガラス使用

獨樂新話 完

208
56

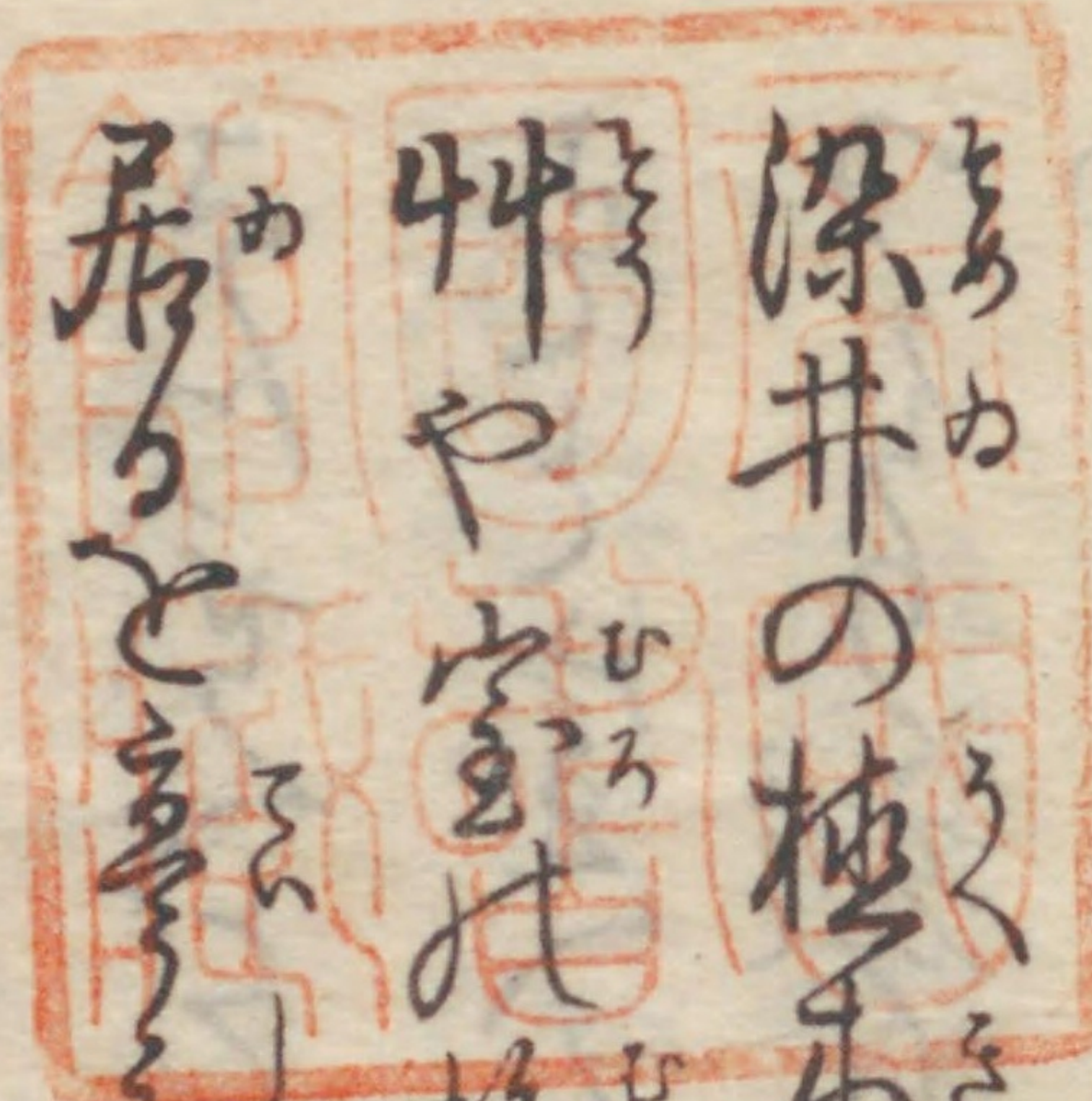


沙汰の菘土積つもれの弄盤玉もんたまの露つちあらる。
数かずくあ鳴なのらねを取とんとはらるからる
不自由ふじゆうあらぬみやまのハ重やまさらる本
ろのちせて小冊せうさく子しとも笑わらや門は
はふく豆の七歩しちほれ噓あら忽たちまちすから
つけ付ね。

虎溪山人

びろびろ室むろ笑わら

深井ふかいの植あら屋やで落厚あつゆが福ふく壽じゆ
仲なかつや室れ梅の鉢植うゑ子こんととれく
居ゐらとまらるとんとてらあらるハ鉢はち
植うゑがとまらるとんとてらあらるハ鉢はち
世よのあらるははははがとまらるとんとてらあらるハ鉢はち



はなはたしき事なりとて

ふらふらうあきまはるき事なりとて

はらへんはれりまがひふんじらま

はらへんはれりまがひふんじらま

つらりえれおまじの朝室れを

めけてんせんば肉うら万歳が

生で

一足白田

後極司人たふ肉こで中分らる

かあが中しきいでりえりれぬ船よ

樂りてふ川伸くおやうと作

物されらんそくを司るて

ガラス使用

独楽新話 208-56

国立国会図書館

平川の沖へくたせせぐ及極作よら
下屋敷(豆)と若ふと若ふ司人
元のされていらくおふりあしを
は屋敷で作付られてもまことう
かひのとあまこととをハテをり
といふ鳩が笑り

桃を糸

久しかりで桃を糸又鬼が将人
室をよりとしてまおりと例の役
若たがゆくモしくおまの腰よ
解てごらりんごらりんをこれの
目年一のまらんひんひん

くさるお佐やま

本刀賣

を比の細術けんぶつのたのころるなりと笑わら
てぬりぬれふい商人ゆゑんど屋敷所やしきと本が
刀ややくと賣うのりけバ窓まどくら本
刀やよくとよんでくららびび七しち女め

みトツでいんちんいんちんとさとさひひおお

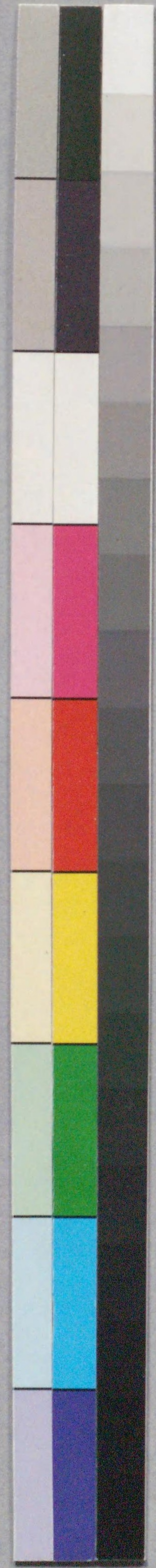
みまよころせ入いくくとさとさのありま

せぬとひつひひびびてああーががええなり

モシへふふカカままののててののびびまませせららととん

トイヤトイヤままののいいままカカららららぬ

トトくくひひ



おどろき袖そで子こ出で頃ころおお雛ひな子こで下したかかが
どらうと居いああらんらんぶぶおおががんんおおの内うち
十七八いその娘むすめががまま孫ひなごよよして毛けのを
おおががああーーんんくくんんれればばああららややああらら
ととああままいい出でーーんんれればばああららややああらら
ととええんんせせーーんんくくんんれればばああららややああらら

かんかんととううててぶぶちちらら同あじあくく一い多ちええ
ががんんががああままいいどど何なんももくくとと笑わいいが
ととぶぶらららら娘むすめがが出でててああららととらられれ
ててトトどどららととかかまままましてしてととららんんととららんん

枕まくらううららまま

ああららぬぬああららぬぬととぬぬりりままららんんとと



賣のり死なれたをば新造久し
 禊ぐひよて鬼著れ紋ついで
 枕と賣りれたる枕賣門は出んと
 此の都合歌は書物りけけ家のまま
 ところより教とくろり枕賣と座
 出らせとぞよ打とくくたれば

花より 松より何のまぐく
 おも打よぬえい
 りんぞ
 おはくらくらせうらせ
 ね

兄弟三人一産で女席賞よゆらね

ぐりふらせそのどひてころおが
 親仁が十面作つて火の跡よあつら
 て居る赤子がこゝろくろくそんそん
 りれを 親仁 中らうめタアのどん
 うせどろく 十 慈簿よあつら
 かつお夜があげまして 親 何うい
 簿あやアあめく二男も同じくそん
 とそりれがうぬいどろくろくハイ
 寸伯がで基を打て居る 親 何
 基よアあめく惣領ハモウけい
 かりぬと大手とあつてどろくそん
 りれを大甲らめおのれどろくそん



とらふアイをれいりや席費さへ何
女良買ながらあましく
うそをらりりり

おまり

あんとうのなみとよみ和訓のどり
て付らうとらんをらあくきん
ひつらうと小首さびけるに物知

男 王へくしとせむいならしひでさうら
めうしくのれよの故りげらる昔
加賀の山中で様人が松の末下
み屋を寐として居るとせうゆ橋不
どの大地が松の枝うら給らしと
まうて一ちりよのこまうしんまで

どようやまに さまんどうやまやまに
ちり休子 塚所 役者 仲為 何じ
とらふ若田 金入り くらふおがめらや
らふが初日 で大入のさ中急
役のあ一目くら例の中流の云
家悪で 大づめよ大友のまをれ 揮
出いふふれりたれば 先とらとら

て乃具の馬が あいさうあふを
はさるるで なるふ合せさて 大づめふ
ありあさいさ 九流のお家
金冠で 彼るよ 打系やあんく
で 幕がとれる ヒイ どんぐで
ぞいおがはさるる 中 大鞍の

音よせらるゝいんおの中とよん
どうけおとぐらとど田畑のちやべ
つあくやこもに欠ありの役も
い死よあつてあつておれは村方
のせふ人どもあがあれぬうら
まゝのりーく

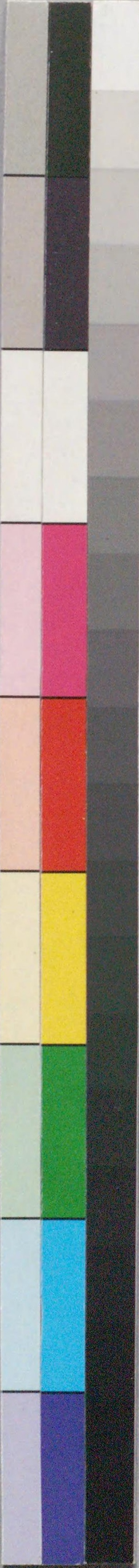
おぬを布

初会れ客人おぬれありのとよん
子の床の中いひとらうとらう
後て居るといひさア〜くあてあ
床へあて枕えで何中らあかく
とあひておろりや表へ引にッ

の^{ひき}抽子^{しき}本 ^{カチ}カチ^くく ^客客^録録^耳耳^子子^笑笑
てとあり町で打とび目とま^まま
抽子本がぐんぐんくと^うう^ぬぬ^れれ^がが
ぐんぐん^の抽子本と何よあんどん
おんづ^ひひしてア^くく^まま^らら^れれ^ゆゆ^ちち
んぞ

たしあみ

舟^まま^んん^ぢぢ^うう^ふふ^ゆゆ^りり^てて^居居^るる^とと^うう^らら^くく
糸^がが^ぬぬ^るる^どど^よよ^んん^でで^ほほ^とと^愛愛^ささ^らら^るる
らん^ああ^ぐぐ^れれ^おお^ごご^んん^てて^むむ^らら^いい^でで
り^らあ^らい^のの^むむ^ねね^はは^らら^いい^とと^まま^んん^くく^らら
十^ええ^んん^のの^白白^でで^ごご^うう^とと^{らん}らん^ああ^らら^るる

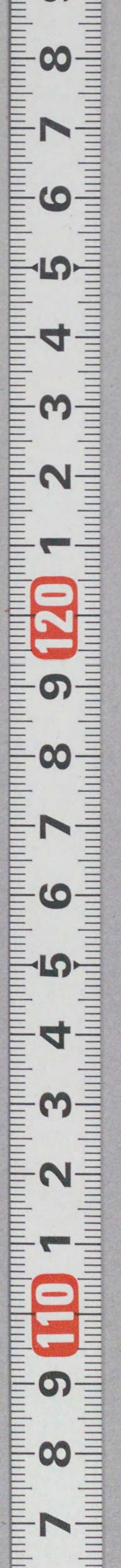


今から世にんよちが^{あつ}あでりぬ
 せうび^{せう}び^びならぬ^らぬと^らい^なば^な
 さい^{ざい}ヤ^ヤそれ^よよ^ひま^どあ^ひら^あ
 枚子^{まい}と^あま^らう^ら入^てち^とま^あ

ざりせん

まどあひ

人の^えら^らい^よせ^らら^らて^いひ^あら^ねと
 吐^きあ^がら^うお^でん^とほ^まみ^切て^喰ふ
 ハテ^らせん^がま^まい^くや^よい^いか
 み^どい^くを^何い^いや^甚が^こ



師^{りうきと}と人^{ひと}をゆ^ゆの^の女^めの^の人^{ひと}とれ^れ書^か
折^を竹^{たけ}と^とか^かも^もあ^あら^らめ^め枝^え打^{うち}を^を人^{ひと}
ぶ^ぶき^きら^らひ^ひて^ての^のび^びり^りと^とあ^ある^る牛^{うし}の^の
ち^ちろ^ろ鴨^鴨店^店ら^らん^んで^でみ^みど^どを^をら^らづ^づと^と
隣^{とな}りの^のさ^さら^らと^とい^いて^てい^いく^くに^に花^{はな}
くら^{くら}い^いと^とら^られ^れア^ア、[、]ら^らに^に

掛^かり
び

あ^あら^らみ

裏^{うら}河^かを^をれ^れあ^あも^もか^かが^がら^らが^がら^らと^とい^いふ^ふ
ひ^ひより^{より}と^と枝^えや^や花^{はな}と^とい^いふ^ふら^らの^のい^いと^と
ひ^ひあ^あら^らめ^めと^とい^いふ^ふら^らの^のい^いと^と
あ^あら^らめ^めと^とい^いふ^ふら^らの^のい^いと^と



とやアグれりかうぞにやあ

何んぞくよア娘ををらる

花火

中例の仮毛で女帯花火と務む

一くば若れり安全でいらぬ

ゆくとどろくやうとやひ

のぞん拵てあてとがしてんせう

とらふあ川の中て花ア火く

とらふ声りすりと免が下へ欠り

てじうみのあエーリ

鉄砲疵

あれ源がうてあくしぎんがなる

ひがどま〜いヤあねもあ〜ど町の

女の濃瘡いっがうはらてら〜ぶやア

ぬくそれよまらつ〜とあつて右

る肉うらよとらむら版ゆみ穴ゆみがのりてのんま

ア公よりららがららひらくら横よこ町の

医いちちああよよんんくく苦くらら〜ととんんら

毎まいををんんくく安やす抱だががらら〜ととら

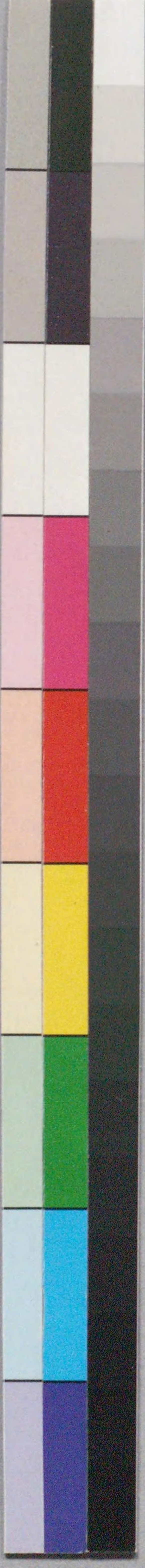
わわうう疝ぜんどどととららららああららへへエエどどら

アアででててああくくああんん〜ととららんん

えん 産 難産

産えんハハ生かう死トのの〜ととららららああががおお〜ととら

ととららいいらら子こがが足あしとと出い〜とと居かて



どもくても生まれど新袴子護符
 以而度糸り医者の名あり尻紙
 ゆんでんせてもらんあささらり
 どののげ波女への引紙さうハテ
 ぶまんとおびことあうにされて
 居れば側うかうらみ附よらんく
 かるひ医もらよらうやぶがあも
 のごとまり裏の宅客老とゆん
 来やうと欠ゆーがあよゆん
 舞とりやくお腫とらんくろと
 松子とらんれさうぐまらく
 先火とらんおらしてきんれと

しんをきひきらつらんよよくおら
ていざりまことおてある宅安
右のよまらうのうと持たで産
婦のあをまらうてとりやれと
入すこといと引り

大通十八

何の何ごととらふとらふとらふ
夫のあはれいしあよ及ぶとらふたを
こ入その介手及自天産あのお好
何らうからぬ大毎毎日く友ざら
のつめてれ如神賞ほよも世の中
の人とびみおやがと入下ー我ひ





は先^えあされまゝとらつてまゝと例^{れい}

のこゝろに屏風とまゝとて内

入りぬ塔^たとまゝとてまゝとて

て時^ト分^{ぶん}と待^{まち}ちかひ一人^{一人}とそれと

声^{こゑ}とくられを一時^{一時}まをさしと

とらまゝとてまゝとてまゝとて

まのこればかりとてまゝとて

くつて居^ゐる

とてまゝとて

と家^と方^{かた}のおがうさん^{さん}がとらつて

指^{ゆび}と入^いりつてそれがぬけあんで

外^げ科^かとよぶの何^{なに}のこゝろに

何とやらもさういふをむらさ

ハイららとさうもいふま

めくさう
悪名

ざん彦次の女房ままとして居る

けとらてめくひいとどらり

めとまらつつけい女房あと

何もぞろろいと

アまをぬ人まと

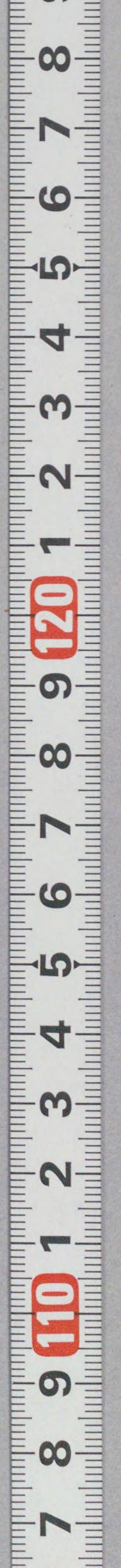
とくをだまらいと

目とぬいと

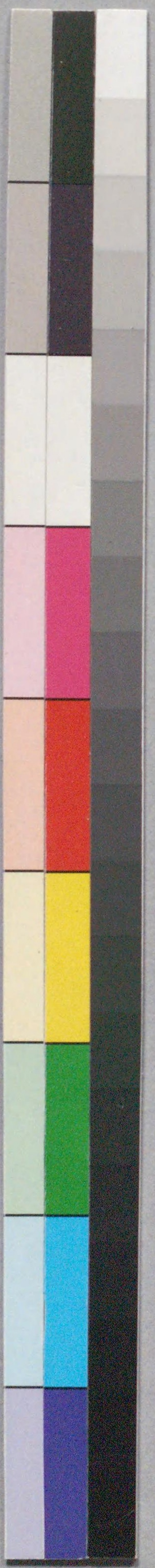
ぢやう
女希賞

せい表背大じん女希賞まら

ても連れだらうゆゑにす百ひくあい
 由ゆ一いつらあううと連れの由ゆ入い膏こう菜さいと
 ろうて同どうくかかららゆゆききしてあが
 ををささうう大だいややととううととののげ
 ををせせるるででんんせせつつけけににせせむむいいで
 も由ゆり人にんあありり由ゆ入い産さん後ごの内うちらら
 大だいどどんんのの方かたををららううおおららががあありり
 連れののこころろにに煩わづらひののややううににいいんんだだれれが
 女にょ希きもも盛もろろとといいふふららううとといいふふ
 ののつつららゆゆ由ゆ入い連れももひひららとといいふふれれど
 ららななががいいかかららああるるああれれががゆゆららとといいふふ
 衆しゆとといいふふ衆しゆ入いららううとといいふふややりり女にょ希き



ぞしこもめさくしんくんとおぢ
 内の者よの分の口の下ううう下う女
 獨ひとりぞおらささてたふがとらさう
 みぬとコレくハ助すけどのまねがめ目めか
 度とありさうぶとめくもてらん
 かとらんぐハ助すけとんでぢぢありらん
 おもておれがあらやアめらん
 目お友させるるめどやアぬん
 巨こ魁け
 さありれ小こ娘むすめがあてらんよめ
 つてのとんでぢんと女むすめ房むらコレおめ
 のあてもあらうととらんうアイと



やさしきふいやくまじりてりて
 のひらさゆほとゆかりぬがたくさ
 並巨雄ぶらうがアイサ登ハ
 とれたるるぬ夜いたどんと入
 かののい

晒落本類目録 江戸通油町耕書堂
 葛屋重三郎板

傾城買平八手	山東京傳作 全壹冊	きくと女帯ねんたんきり くまのて曲わさけなり
小紋雅話	同作 全一冊	あせ毎うきこゝ狐尾ちよ小 ぬみりて志連を成そゆけ
新造圖彙	同作 全一冊	きんりうつひあつひてあせ乃 ききすう形衣場かきこゝ
通言總籙	同作 全一冊	うわらう風俗并に控女のつれぐ のてあつひあつひをしくあせ
百人一首初夜抄	同作 全一冊	百人一首初夜抄のてあつひ とつてわらうきこゝ
馬麻溝秋	同作 全一冊	うわらう風俗并に控女のつれぐ のてあつひあつひをしくあせ
傾城鑄	同作 全一冊	うわらう風俗并に控女のつれぐ のてあつひあつひをしくあせ





吉原揚枝

同作 全一冊 けいせいの賞の極みでんきまくと
女帝のころらえんぶあす

容衆所照子

同作 全一冊 おんか新造亮中との風俗を
紫づみひきまはかくと志る

小紋新法

同作 全一冊 世よりのゆるゆき物派を
わらうらそめいふ志をよそ加ふ

云教色

唐本和作 全一冊 神佛のつらつら極み
とげつひれ格あそ虫のつら

和唐珍解

同作 全一冊 長き女の命賞のこんえん
長き女は行唐を派あそ

娼地地理記

喜三之作 全一冊 吉原入丁町派万国の
産物あそめりふふまふり

柳巷化言

同作 全一冊 けいせいのわらわら極み
なると虫あつあつと奥の幸あり

氣のふり

同作 全一冊 けいせいのわらわら極み
くわらわら極みあり

野夫證

全一冊 中いりやれ定派しづく虫のせ
長き書生長書の伝派のする

奥腹筋三略巻

全一冊 産物あそびのどうき派を
あふわらわら一傳授虫派をゆり

曾我孫袋

全一冊 けいせいの賞をうれこんえん
のきまけいふあそつて作らる

手管智恵遣

全一冊 女帝のたわつらひの付け
氣とりれたる虫派をよそ加ふ

泮都洒美撰

全一冊 けいせいの賞をうれこんえん
のきまけいふあそつて作らる

彙軌奉記

全一冊 けいせいの賞をうれこんえん
のきまけいふあそつて作らる

山東京傳戲作

賽廓 四十八巻後編 全二冊 初編のあそつる新編
多くあつて

目

二

208
56

書林

葛屋重三郎

江戸通油町

江戸通油町
葛屋重三郎
此ノ書ハ新板諸君返
中ハ由彩ノ由後々ノ
下候

<p>新話仕懸文庫 全二冊 あつ川の尚世又かも まろねあそびとまろね</p>	<p>傾城貫早学問 全一冊 よろろあそびの極秘 とまろね</p>	<p>信物娼妓繪籠 全一冊 まろねあつ川まろね のあそびまろねとまろね</p>	<p>地者八景 全一冊 地者之志中まろね 及まろねとまろね</p>	<p>總師優細見記 全一冊 吉原細見小芝居後巻の 事とまろねとまろね</p>	<p>雜誌紙屑籠 全一冊 これとあつ川まろね 人の情をまろねとまろね</p>	<p>五ノ介新板のまろね まろね</p>
--	--	---	---	--	--	--------------------------



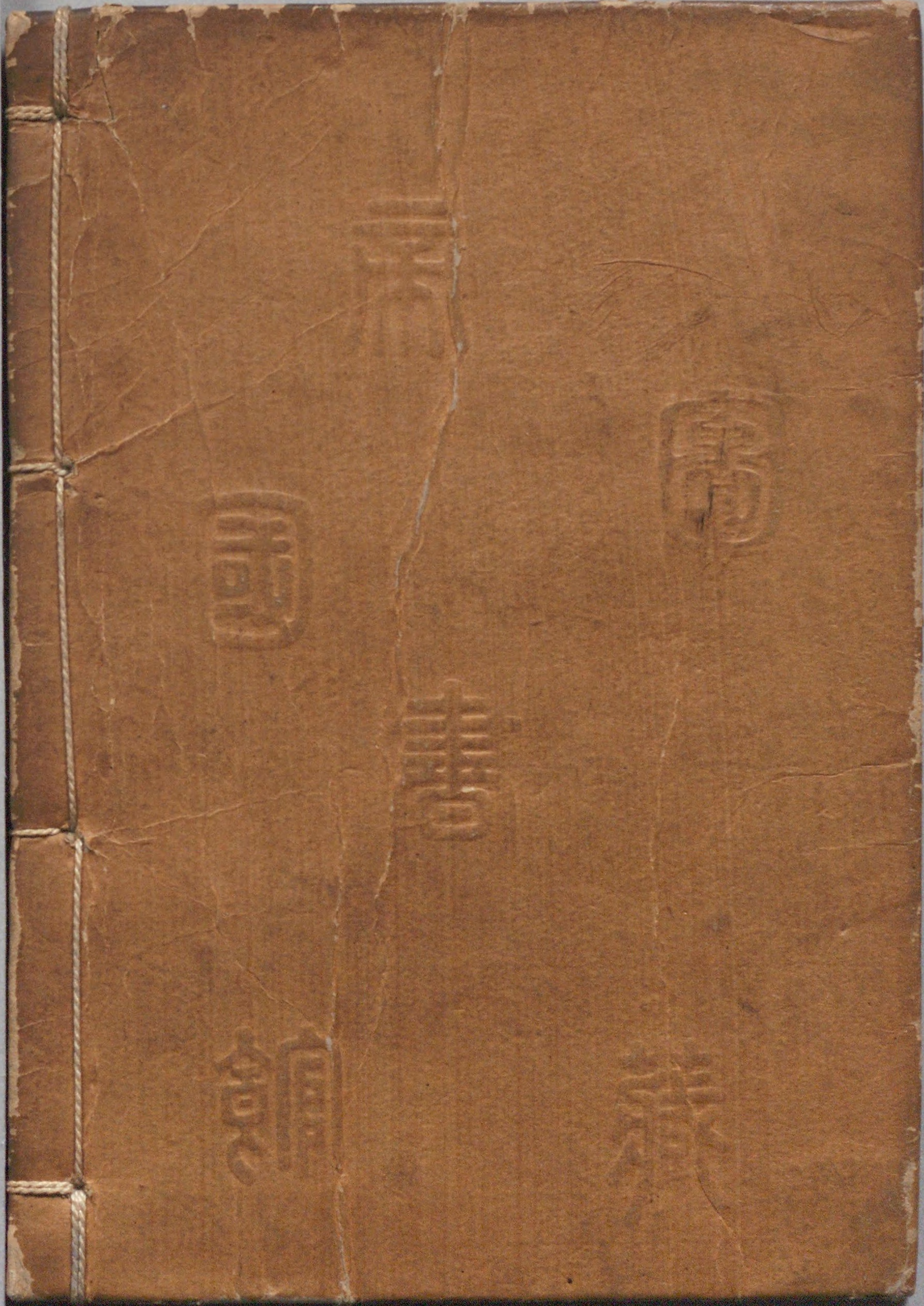
208
56

馬場
新話
巻之二
目録





国立国会図書館 独楽新話 208-56



ガラス使用

